（別記）

令和８年度富良野市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は複合経営が多く、様々な作物を作付けしている。

農家の高齢化等により農家戸数の減少が進み、一部の作付けが増え作物が固定化されている。野菜などの高い収益が望まれる作物は働き手の確保が難しく、面積の減少が懸念されている。

また、畑作物に関してはほかの地域と比べて単収の低さが課題となっている。

本地域は酪農も盛んであり、家畜頭数は増加傾向にあるが、飼料作物の確保と家畜糞尿の有効利用が進んでいない状況である。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本地域において収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物や、地域の特徴である複合経営を維持するために必要となる土地利用型作物等を加えた輪作体系の構築により、経営の安定・発展を図ることが重要である。

さらに、粘土質の土壌が多いことから排水性対策等による生産基盤の改善や、堆肥の施用、農業施設運営の効率化による生産コスト低減、共選・共販の強化や出荷期間・販売地域の拡大などにより、産地力の強化を図ることも必要である。

今後、多様なニーズに対応した農畜産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進めるため、「水田農業高収益化推進計画」の策定を検討する。

また、輸出等の新たな市場の開拓については、GAP や HACCP の取組を推進し、実需者が求める安全・安心な生産と工程の「見える化」を進めていく。

意欲的な農業者として位置付けている認定農業者へ農地集積を進めながら、北海道が作成している「北海道農業生産技術体系」や、上川農業改良普及センター富良野市支所で作成している「富良野地域生産技術体系」に沿った取組の推進や、スマート農業等の省力・低コスト生産技術の導入、みどりの食料システム戦略の目指す姿に向けた化学肥料の削減等の取組により、収益力向上と持続可能な産地づくりを図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

農地の排水性の改善、集積等に計画的に取り組むためにも、「地域計画」に描かれた地域の将来像や効率的な土地利用に配慮しつつ、露地野菜やハウス栽培、畑作物の本作化を検討する。

露地野菜やハウス栽培、畑作物を本作とした畑地化を基本としつつ、一部水稲の盛んな地域等においては水稲を組み入れたブロックローテーションの構築など水稲の作付けの在り方を検討していく。

水田の利用状況について、関係機関が連携して点検等を実施しており、その状況を踏まえながら令和８年度までに水田の畑地化への取組等を検討する。

4　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

需給状況を踏まえつつ、生産の目安に沿った作付面積を維持するよう努める。

（２）備蓄米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

イ　米粉用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

ウ　新市場開拓用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

エ　WCS 用稲

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

オ　加工用米

作付動向により、生産の目安を指標に水田面積を確保する。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦・大豆は堆肥の施用による土づくり、輪作体系の確立、適期防除など収量の向上に資する取組を行い、単収の増を図る。

飼料作物は、頭数の増加による飼料の確保に対応するため、堆肥等の施用による単収の増や、有畜農家への集積と資源循環の取組を推進する。

（５）そば、なたね

堆肥の施用による土づくり、輪作体系の確立、適期防除など収量の向上に資する取組を行い、単収の増を図る。

（６）地力増進作物

えん麦、ライ麦、とうもろこし、イタリアンライグラス、ソルゴー、ギニアグラス、大豆、アカクローバー、クリムゾンクローバー、ベッチ類、カラシナ類、ひまわり、なたね、マリーゴールド、リンドウ、ハゼリソウ等の導入を計画的に行うことで地力を増進し、高収益作物、畑作物の収量増を図り、更なる収益力の向上を推進する。

（７）高収益作物

農家収入の安定、および消費者ニーズに応えるべく多品目による生産体制を維持・拡大する。特に、施設園芸作物（ハウス栽培作物）は実需者からのニーズが高く、かつ本市のハウス面積は北海道でも有数の規模であるため、重点振興作物として作付面積の拡大を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	579		574		574	
備蓄米						
飼料用米						
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲						
加工用米						
麦	230		176		176	
大豆	25		19		19	
飼料作物	113		86		86	
・子実用とうもろこし						
そば	6		5		5	
なたね						
地力増進作物	55		55		55	
高収益作物						
・野菜	231		176		176	
・花き・花木	0.6		0.5		0.5	
・果樹	0.3		0.3		0.3	
・その他の高収益作物	6		5		5	
その他						
・てん菜	23		17		17	
畑地化	398.7		148		161.3	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	野菜、ばれいしょ、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	高収益作物助成	作付面積	（７年度） 202ha	（８年度） 202ha
2	ハウスにて栽培する野菜、花き	施設園芸作物助成	作付面積	（７年度） 33ha	（８年度） 33ha
3	てん菜	単収向上対策助成	単収	（７年度） 23ha 6,260kg/10a	（８年度） 23ha 7,137kg/10a
4	てん菜	直播栽培助成	作付面積 直播率	（７年度） 23ha 65.2%	（８年度） 23ha 67.0%
5	大豆	単収向上対策助成	単収	（７年度） 25ha 280kg/10a	（８年度） 25ha 285kg/10a
6	飼料作物	飼料作物の自給率向上対策助成	作付面積 自給率	（７年度） 37ha 62.8%	（８年度） 37ha 70.3%
7	野菜、ばれいしょ、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	土づくりによる収益力向上対策加算助成	作付面積 取組面積 単収 （代表作物：玉ねぎ）	（７年度） 242ha 13.3ha 4,750kg/10a	（８年度） 242ha 13.3ha 6,101kg/10a
8	てん菜、大豆、麦、そば、なたね	土づくりによる収益力向上対策加算助成	作付面積 取組面積 単収 てん菜 大豆 麦 そば なたね	（７年度） 285ha 26ha 6,260kg/10a 280kg/10a 416kg/10a 74kg/10a －	（８年度） 285ha 26ha 7,150kg/10a 280kg/10a 493kg/10a 110kg/10a 267kg/10a
9	野菜、ばれいしょ、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	土づくりによる収益力向上対策加算助成（堆肥施用）	作付面積 取組面積 単収 （代表作物：玉ねぎ）	（７年度） 242ha 92ha 4,750kg/10a	（８年度） 336ha 119ha 6,101kg/10a
10	てん菜、大豆、麦、そば、なたね、飼料作物	土づくりによる収益力向上対策加算助成（堆肥施用）	作付面積 取組面積 単収 てん菜 大豆 麦 そば なたね	（７年度） 285ha 128ha 6,260kg/10a 280kg/10a 416kg/10a 74kg/10a －	（８年度） 285ha 128ha 7,150kg/10a 280kg/10a 493kg/10a 110kg/10a 267kg/10a
11	野菜、ばれいしょ、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく、てん菜、大豆、麦、そば、なたね、飼料作物、飼料用米	輪作加算助成	作付面積 取組面積 単収 （代表作物：玉ねぎ）	（７年度） 634.4ha 36ha 4,750kg/10a	（８年度） 634.4ha 36ha 6,101kg/10a
12	そば	そば作付助成	作付面積	（７年度） 6ha	（８年度） 7ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

#REF!

協議会名：

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	高収益作物助成	1	18,500	野菜、ばれいしょ（生食・加工・種子用）、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	対象作物を作付すること
2	施設園芸作物助成	1	36,200	野菜、花き	施設園芸（ハウス）にて対象作物を作付すること
3	単収向上対策助成	1	20,800	てん菜	排水対策、病害虫防除等
4	直播栽培助成	1	1,100	てん菜	直播栽培の実施
5	単収向上対策助成	1	13,800	大豆	排水対策、病害虫防除等
6	飼料作物の自給率向上対策助成	1	12,300	飼料作物	2番草の収穫、化学肥料の削減等
7	土づくりによる収益力向上対策加算助成	1	6,900	野菜、ばれいしょ（生食・加工・種子用）、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	前年度に地力増進作物を作付けした圃場において、本年度に対象作物を作付し販売すること
8	土づくりによる収益力向上対策加算助成	1	6,900	てん菜、大豆、麦、そば、なたね	前年度に地力増進作物を作付けした圃場において、本年度に対象作物を作付し販売すること
9	土づくりによる収益力向上対策加算助成（堆肥施用）	1	2,300	野菜、ばれいしょ（生食・加工・種子用）、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく	当該年度産の対象作物に対し、堆肥の散布に取り組むこと
10	土づくりによる収益力向上対策加算助成（堆肥施用）	1	2,300	てん菜、大豆、麦、そば、なたね、飼料作物	当該年度産の対象作物に対し、堆肥の散布に取り組むこと
11	輪作加算助成	1	2,300	野菜、ばれいしょ（生食・加工・種子）、果樹、花き、豆類（大豆除く）、こんにゃく、てん菜、大豆、麦、そば、なたね、飼料作物、飼料用米	当該年度を含む3年間において、全て異なる対象の3作物を作付すること
12	そば作付助成	1	20,000	そば	そばの作付をすること

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。